



2026年4月14日

各位

会社名 株式会社オキサイド  
代表者名 代表取締役社長(COO兼CFO) 山本正幸  
(コード番号: 6521 東証グロース)  
問合せ先 執行役員(CSO)企画本部長 竹内健吾  
(TEL. 0551-26-0022)

### 個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

当事業年度の個別業績が、前事業年度の実績値との対比においてその差異が開示基準に達することになりましたので、お知らせいたします。当社は、当該期間に係る個別の業績予想を公表しておりませんが、対比につきましては前事業年度の実績値との比較になっております。

#### 記

#### 1. 2026年2月期通期個別業績(2025年3月1日~2026年2月28日)と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	6,920	431	403	△3,271	△295.18
実績数値 (B)	8,594	1,217	1,077	11	0.96
増減額 (B-A)	1,673	786	674	3,282	
増減率 (%)	24.2%	182.2%	167.2%	—	

#### 2. 差異が生じた理由

当事業年度の個別売上高につきましては、半導体、ヘルスケアおよび新領域の各分野において、当社単体の事業が順調に推移した結果、1,673百万円の増収となりました。

事業別の状況は以下のとおりです。

半導体分野では、深紫外レーザおよび単結晶の既存製品の需要拡大に加え、昨年12月に発表した新製品の立ち上がりにより、前期比298百万円の増収となりました。

ヘルスケア分野では、新規顧客向けの売上計上の開始に加え、第2四半期に前期からの一部出荷期ずれも寄与し、前期比771百万円の増収となりました。

新領域分野では、世界的なデータセンター需要の拡大を背景として、ファラデー回転子の出荷が増加したことにより、前期比603百万円の増収となりました。

これらの増収による増益効果に加え、各種費用の効率化も進展し収益性が改善した結果、営業利益は786百万円増益の1,217百万円、経常利益は674百万円増益の1,077百万円となりました。

当期純利益は、前事業年度において計上していた連結子会社Raicol社に係る株式評価損3,261百万円などの特別損失3,631百万円の計上がなくなった一方で、当事業年度においては、同社株式の売却損1,606百

万円を計上したものの、税効果会計に基づく法人税等調整額507百万円を計上したこと等により、前期比3,282百万円増益の11百万円となりました。

以 上